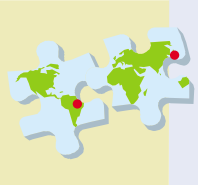


途上国の現場から

～北海道の経験をブラジルへ　エキノコックス症対策～

北海道立衛生研究所が2004年度から実施してきたブラジルへの草の根技術協力事業（地域提案型）「エキノコックス症流行地における感染源動物対策推進事業」 の評価調査団がこの3月にブラジルを訪問し、これまでの協力の成果、そして今後の協力の実施方法等を調査しました。

「エキノコックス症対策」の対象地は、ウルグアイとの国境沿いにあるリブラメント市。市内の公園の真ん中や農場内を国境線が走っており、人々は両国を自由に行き来しています。主要産業は畜産で広大な農場の風景がみられます。ここでは北海道立衛生研究所による協力がきっかけとなり、有志の市民によって「エキノコックス症対策委員会」が自発的に設立されました。同委員会では、感染予防のための啓蒙活動や感染源であるイヌの対策などを行っています。

委員の一人であり小学校の教員であるイベッテさんは、「以前勤めていた学校はエキノコックス症の流行地域でした。そこでの様子を見てなんとかしたいと思っていました。今では各学校を回ってエキノコックス症の感染予防に関する教育活動を行っています」と話していました。また、研修で来日したこともあるサンタマリア大学のマリオ教授は、「エキノコックス症対策には根気が必要だが、日本からのサポートが精神的な支えと励みになっている」と話していました。

同症には息の長い対策が必要です。2007年度からは、対策活動の普及を目的とした新しい協力がはじまります。　（JICA札幌　加藤）

協力対象地域に広がる広大な農場、ブラジルではエキノコックス症への的確な対策が求められています

草の根技術協力の結果を踏まえエキノコックス症対策に係る衛生教育を実施している学校

研修の現場から

～地域との交流から学ぶ母子保健～

2003年度から「母子保健人材育成コース」の受入を行っている旭川医科大学の北村教授に、研修コースの特徴と道北地域との関係について、語っていただきました。

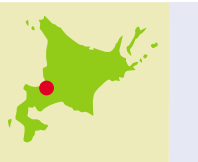
旭川医科大学がこの4年間で、受け入れた研修員は25ケ国、38名になります。研修では、学内での講義・演習はもとより、日本の最北端に位置する大学の地域特性を活かし、開拓保健婦やその後の看護師の活動、地域拠点病院の機能といった、地域の母子保健に関する歴史的経緯と現在について、具体的な実例を活用しながら研修することにも重点をおいています。また、本大学病院はじめ道北地域の自治体、医療機関の協力のもと、現場職員、住民との意見交換、交流にも力点をおいています。

研修終了時に研修員から、「地域に根ざした看護職の重要性」、「看護職以外の職種との連携や行政施策の重要性」さらに「住民との協力の大切さ」がよくわかったとの言葉を聞きます。また、道北地域の協力機関からは、「開発途上国からの研修員への講義、そして交流は職員、住民に強い刺激を与えており地域の活性化につながっている」との言葉を聞きます。

今年度も十分に準備をして楽しみに研修員をお待ちしています。

（旭川医科大学看護学講座　教授　北村久美子）

研修中に道北地域の様々な保健医療機関を訪問し、実際の保健師の活動を視察するとともに、意見交換等を行いました。



開発教育の現場から

～現職教員、JICA札幌での一年を振り返る～

平成18年4月から平成19年3月までの1年間、JICA札幌で教員社会体験研修員として実際に様々な業務を行っていただいた現北海道美唄工業高校の小幡教諭に、1年間を振り返っていただきました。

JICA札幌での研修を振り返ってみますと、まさに「気づき」と「学び」の連続の1年間でした。

特に「国際協力」というものが、身近に存在するものであると共にそこには我々の生活と密接に繋がっていることを学ぶことが出来ました。このことは、今後の教員生活の新たな視点となりました。ベトナムの教師海外研修に参加された先生方が、異口同音に「日本人が失ったものをベトナム人はしっかりと受け継いでいる」とおっしゃっておりました。日本人が失ったもの、それは他人に対する思いやりや家族愛ではないかと思います。いじめ等に代表される心の病を抱えた児童・生徒が多く存在している日本において、「国際理解」「国際協力」を学ぶことは、もう一度自己を振り返り失ったものを取り戻す貴重な機会として捉え、今後取り組んでいくつもりです。

反面、JICAが展開している開発教育支援事業について、教育の現場に周知されていないことが残念に思われました。教育に見返りを求めることは馴染みません。次代を担う子供達に世界を「知る」「触れる」機会を純粋に提供するというスタンスで広報いただければ、学校としても活用の幅が広がるのではないかと思われます。

（北海道美唄工業高校　小幡健一）

＊平成19年度、JICA札幌では2人の教員社会体験研修員を受け入れています。

この1年間、小幡教諭は開発途上国からの研修員からも、たくさんのことを「学び」ました。